

「イカ」の資源回復に向けて

南島原市では、漁業資源の回復に向けてイカの人工産卵施設を設置しています。近年、有明海の水質低下による漁場環境の悪化により海産物の水揚げが減少傾向にあります。

深江町漁協では、5月3日にイカ網やイカかごを設置し20日に産卵状況を確認したところ、まばらに甲イカや紋甲イカの卵が付着していました。甲イカの赤ちゃんは1～2カ月程度で孵化し、約5mmと小さく大人の甲イカと同じ形をしています。孵化後は、浮遊しながら小さなプランクトンを食べて成長しますが、この時期に捕食されやすく生き残るのはごくわずかです。今後も産卵場所が失われないように資源回復に努めていきたいです。



(イカ網の様子)



(卵の中に甲イカの赤ちゃんがいる)



(イカかごの様子)

